

(Daily 日本史) ～原始時代～

【問】 2003 年 新潟大学 人文(地域文化)

つぎの文章 A, B を読んで、下記の問 1 ～問 4 に答えよ。

A 更新世の終末期、アジア大陸北部には、長さが 3 ～ 4 cm 程度、幅は 1 cm 以下で、カミソリの刃のような形をした ア とよばれる小型石器が特徴的にみられた。それはサハリン、北海道を經由して、北回りで日本列島に波及し、新潟県でも出土が知られている。一方で、その石器は、朝鮮半島經由により、西回りでも日本列島にひろがったとされる。長崎県の福井洞穴や泉福寺洞穴では、その石器にともなって イ が出土した。その イ の年代は、^(a) 理化学的方法 により測定され、今のところ世界最古のグループに属することがわかっている。 イ の出現は、食料調理法に変化をもたらし、人びとの生活に大きな影響を与えたとされる。

B 『日本書紀』には、6 世紀代に、日本海を舞台とした、さまざまな民族の交流が記されている。たとえば、欽明天皇の時代、現在の朝鮮半島北部から中国東北地方南部に勢力をもっていた ウ という国の人びとが、加賀に到着したという記述が残る。また、佐渡に^{みしはせ} 肅慎とよばれた人びとがやって来たともある。肅慎がどこから来たのかは明らかになっていないが、日本海北部沿岸には、さまざまな民族が活動していたらしい。そのころの北海道では エ 文化が、まだ続いていた。この文化では、当時、東北地方から九州地方までの、日本列島の大部分に広がっていた オ 文化と、^(b) 食料を得るための主要な方法が異なっていたことが知られている。

問 1 空欄 ア ～ オ に、もっとも適当な語句を記せ。

ア

イ

ウ

エ

オ

問 2 ア の石器は、どのように用いられていたと考えられているか。40 字以内で述べよ。

問 3 下線部(a)のような、考古学資料の年代測定に用いる理化学的方法の名称を、1 つ記せ。

問 4 下線部(b)について、どのように異なっていたかを、 エ と オ の 2 つの文化を対比させながら、80 字以内で述べよ。

【解答】

問 1 ア 細石器 イ 土器 ウ 高句麗

 エ 続縄文 オ 古墳

問 2 木の棒に縦長の溝をつけ細石器をならべ固定して鋸歯状の鋭利な手槍として用いた。

問 3 放射性炭素測定法

問 4 北海道では続縄文文化が展開し,狩猟や漁撈を中心とした採集経済が続いた。本州では大陸から伝わった農耕文化が展開し,鉄器を使った高度な稲作による生産経済が広がった。